

【アクションカー⑳：経営リスクの回避の準備の仕方】

以下に紹介する経営リスクの回避の仕方の流れは、一般的な取組み手順です。取組み手順にならって進める中で、わからない部分がある場合は、遠慮なく商工会に御相談ください。

①経営リスクの回避の仕方

経営には様々なリスクが伴います。その回避の仕方の1つが経営関連法規を「ある程度」知っておくことです。また、経営がどのような状態かを、可能な限り「リアルタイム」で把握することです。この経営の状態を把握することができる状態を「経営の見える化」と言います。経営の見える化は、以下に紹介していきます。

経営関連法規については、アクションカード㉑「知っておきたい経営関連法規」をご覧ください。

②経営リスクの回避に必要な「経営の見える化」が進まない理由

経営の見える化を促進する上で、ボトルネックになりやすい人物は、実は経営者なのです。大企業の場合は、「力のある社員」や「存在感のある社員」であったりしますが、個人や小規模事業者の場合は、経営者であることが多いです。

規模が小さな事業者の場合、経営者がトップセールスすることが多いため、属人的な業務ばかりになっていることがあります。そのような会社で働く社員やアルバイトの方々は、「社長が何を考えているかわからない」「会社がどこに向かうかわからない」「社長が何をしたいかわからない」といった不満を少なからず持っているものです。会社の中で最も仕事ができるのが社長という状態はある意味当たり前です。だからこそ、属人的な業務であればあるほど、社員やアルバイトとの差は大きくなる傾向にあるのです。

③経営の見える化（経営リスクの見える化）の進め方

経営リスクを回避するために「経営の見える化」に取り組むべきですが、その手順を紹介します。

ステップ(1)会社のビジョンを社内で共有する

ステップ(2)行動指針やルールをビジョンに基づき定め、社内で共有する

ステップ(3)課題・問題の見える化と改善策の立案

→これは内部環境の弱み、それから外部環境の脅威を知る作業です。例えば、自社の弱みは「日常業務に忙殺され意思決定が遅い」、自社の脅威は「当社の商品に代替えられる新しい商品が市場に生まれそう」といった具合です。

④経営リスクの回避の仕方を決める

③のように社内で可能な限り、弱みと脅威をあぶり出したら、改善策（回避策）を決定していくことになります。

	経営リスク	改善策（回避策）	期限
弱み	日常業務に忙殺され意思決定が遅い	1週間に1度、集合ミーティングを実施し、合議制で決定してしまう。	即日より開始
脅威	当社の商品に代替えされる新しい商品が市場に生まれそう	代替えされそうな商品を洗い出し、機能を研究し、自社の商品に不足する場合、その機能を付加できるように改良していく	1年間 (12月31日まで)

⑤経営リスクの回避とは

④で改善策（回避策）が明確になったら、この策を実行していくプロセスに入ります。この実行が「経営リスクの回避」です。

⑥経営リスクの進捗管理

⑤を機能させるためには、定期的なチェック機能が必要です。1人で事業を営まれている方は1ヶ月毎にわざわざ時間を確保し、進み具合を自問自答するようにします。社員がいる場合は、社員と話し合うのも良いでしょう。いずれにしても、⑤で期限を設けていますので、その期限内に達成できるようにしておくことです。

【経営リスクの回避の準備の仕方チェックリスト】

<input checked="" type="checkbox"/>	項目
<input type="checkbox"/>	経営リスクの回避の仕方の概要がわかった
<input type="checkbox"/>	経営リスクの回避に必要な「経営の見える化」が進まない理由を理解した
<input type="checkbox"/>	経営の見える化（経営リスクの見える化）が可能になった
<input type="checkbox"/>	経営リスクの回避の仕方を決めることができた
<input type="checkbox"/>	経営リスクの回避の実行のイメージを社内で共有できた
<input type="checkbox"/>	経営リスクの進捗管理の考えが理解できた